

事業所長による保安に関する意見交換会

石油化学工業協会

「経営層の保安への関与の強化」として現場に最も近い経営層である事業所長による保安に関する第8回意見交換会を安全工学会と共催で鹿島地区にて下記の通り行った。

記

1. 日時：2020年1月24日（金）14：30－17：00
2. 場所：三菱ケミカル株式会社 茨城事業所
3. 目的：保安の向上に日々努力している事業所のトップにお集まりいただき、企業の壁を越えて保安に関する意見交換を図ることで相互レベルアップを図る。

4. 参加者：

(1) 企業（社名五十音順）

花王株式会社	鹿島工場	棚橋 工場長
株式会社クラレ	鹿島事業所	有元 事業所長
J S R株式会社	鹿島工場	山下 工場長
三菱ガス化学株式会社	鹿島工場	木暮 工場長
三菱ケミカル株式会社	茨城事業所	羽尾 事業所長

(2) 安全工学会 湯本事務局長（本会議事務局）

(3) 石油化学工業協会

保安衛生委員会；綱島委員長（三井化学）

志村専務理事

藤本技術部長（本会議事務局）

(4) 各企業関係者：各社工場・事業所の環境安全部門

5. 討議内容と結果

出席者紹介の後、綱島委員長の司会によりトップコミットメントについての意見交換から始まり、技術伝承・教育・新たな技術導入・働き方改革等への取組みに進んだ。

(1) トップコミットメント

様々な工夫を凝らして「安全最優先」の明確な発信と現場への浸透を目指している。

- ・強いトップメッセージ：経営面からも安全は重要、安全対策への投資の重要性。
- ・経営トップの意思が最前線社員に伝わる工夫（分かり易い言葉、目標設定等）
- ・本社事業部（事業部長等）も工場を適宜訪問、関連する現場との直接対話。
- ・事業所長、工場長が現場を可能な限り回り、運転員層も含めた生の声を聴く。
- ・安全対策や職場環境改善対策への一定水準の費用決裁権は工場側で持つ。
- ・異部署間の交流で補完し合う、切磋琢磨する（「脱自前主義」「TPM活動の一環」）。

(2) 工場運営の施策

昨今特に課題化してきた「風水害（強風、豪雨）」や「協力会社関連」についての対応にも注力している。

①風水害対策：

- ・人命尊重。出退勤面での工夫や交替勤務体制の事前準備。
- ・関係部署との事前調整により、停止可能なプラントは停止する。
- ・冠水対策、強風対策など直近対策実施と今後の計画的対応検討中。

②協力会社関連：

- ・協力会社での人材不足顕在化の中、安全活動も一緒に考えてゆく。
- ・特に定期修理対応が課題。
- ・通常業務でも種々配慮し、協力会社の理解協力を得るよう努める。

(3) 技術伝承・人材育成

現在の年齢構成や教育者不足を考慮し、各層（スタッフ、運転員）の育成における多様な課題に、教育システムの工夫等を含め取り組んでいる。

①製造スタッフ育成：

- ・現場での教育者不足（管理職層多忙、ベテラン運転員不足）もあり、初期一定期間の集会的教育の後、各現場に配属する。
- ・課長や課長代理中心のプロジェクトを実行、早期に工場マネジメントを経験させる。
- ・教育者（課長等）の業務負担の低減（課員数など組織面の工夫も含む）
- ・課長自体の教育や課長をサポートする補佐役の育成配置にも配慮。

②運転員育成：

- ・数か月の集合基礎教育後に現場配属する。
- ・若手層向け教育カリキュラムの充実化と中堅層教育での工夫。
- ・ベテラン運転員の教育業務へのモチベーションアップ。

(4) 保安への新技術導入

各社とも将来の人員不足を予測し、これを補うものとして積極的にI o T、A I等の新技術の活用・評価検証を進めている。但し、リソース問題は未だある。

- ・定修において、働き方改革（残業時間制限）を重視。導入可能な新技術を活用して可能な限りの作業効率化を図る。
- ・新技術の活用実現には、対応するリソースの手当てが重要かつ必要。

(5) 働き方改革

特に定修時対応を中心に様々な対策・工夫に取り組んでいる。

将来的には、更に時期分散化やメンテ会社や検査会社側の負荷も低減したトータルの効率化を目指すべく、「定期修理研究会」の活動に期待する。

- ・時差出勤、工事会社対応（早番、遅番）、他事業所からの応援等の工夫。
- ・定修の準備業務は前広にならして実施する。
- ・発注側としても受注側の種々の負担低減のための諸策が必要になるろう。

以上